

山内回想遺産 ふるさと絵図（ふるさとえず）作り実施計画書

【背景】：滋賀県の東南端、甲賀市の東端にある中山間地域である山内地区では、人口の減少、少子高齢化（高齢化率 38%・平成 27 年 3 月）、鳥獣害被害の拡大が進んでいます。このまま問題を放置した場合、地域の人口が減少し、少子高齢化がますます進むことで学校が廃校が目前に迫っています。

そして、後世に残すべき自然環境を活かした地域の知恵や豊かな人材資源が活かされることなく埋もれてしまい、地域活性化の道が遠のいてしまいます。

そんな状況の中、地域に実態に目を向け、地域のある資源を見直し「ないものねだりでなく、あるもの探し」に取組み、その資源を活かして付加価値を付けて地域ブランド化を進め、地域に対する“誇り”“自信”と“地域の展望”を見出していく取組みが必要となってきました。

【これまでの経緯】

- 平成 20 年～平成 21 年 山内老人クラブ で昔の絵図作り
- 平成 21 年～平成 25 年 山内エコクラブ設立 子どもたちと民意伝承活動
- 平成 23 年～平成 24 年 自治振興会にて名人発掘事業開始
- 平成 24 年 沖縄の子どもたちとの交流に高齢者の聞き書きを入れる
- 平成 25 年～ 山内回想遺産グループ での昔語り
- 平成 27 年 山内ふるさと絵図作成たちあげ

【目的】：かなり古い時代から人々が住んでいた山内には、奥山の暮らしの中に、自然にまつわる民話や「天狗」伝説、寺社にまつわる民話等があり、今でも語り継がれています。また、一部の集落には東海道が通り、亀山の関宿～土山宿までの中間地点で、その境界は今も屋号が存在しています。

昭和に入り、昭和 30 年以前の機械化が進む前には、9 割が百姓と山仕事という暮らしの中で、村同士、隣同士、人同士が「かたみわけ」と言った“手間”のやりとりが行われ、現代希薄になりつつある助け合いや支え合いの福祉の精神や自然との共存、環境に配慮した暮らしが普通に存在していました。

このような尊厳ある先人の知恵は未来につながる歴史として後世に残していく必要があります。

そこで、高齢者の記憶に残された原風景の絵図を地元の子どもたちをと一緒に製作し、地域の民意伝承の継承を図りたいと考えています。

【方法】

滋賀県立大学 上田洋平氏（助教）が、発案された「心象図法によるふるさと絵屏風の実践」の手法を用いて展開していきます。

- ①平成 25 年、26 年度 回想遺産づくりメンバーのまとめ
- ②山内在住の高齢者を中心に、記憶の五感アンケートを実施
- ③五感アンケートを基にした記憶の聞き取りを集落単位で実施
- ④絵図にする
- ⑤絵図を題材にした語りの展開、学校や子どもたちへの故郷学習、ツーリズムとして活用

【実施時期】

製作：平成 27 年 6 月～平成 29 年 3 月

話りの展開、発信：平成 29 年 4 月以降

【実施主体】

山内ふるさと絵図作成委員会

山内エコクラブ

【事務局】 山内エコクラブ**【協力機関】**

山内回想遺産づくりメンバー

山内自治振興会

土山歴史民俗資料館

山内同窓会

山内ゆうゆう（老人）クラブ

山内高齢者サロン

山内小学校（これからお願いします）

大学（関西学院大学の予定）

県内で絵図作りに取り組まれている、草津市矢倉地区、安土町老蘇地区、
滋賀県立大学 上田洋平氏（助教）

【経費】

助成金と寄付、山内エコクラブ

【今後のスケジュール】

3 月	コア会議 平成 26 年度 老人クラブ 役員会での説明、協力依頼
4 月	平成 27 年度 山内老人クラブへの協力依頼 五感アンケート配布
6 月末	五感アンケート回収
8 月 27 日	ふるさと絵図って？ 安土 老蘇絵図 川瀬新作さんお話
8 月 27 日	曼荼羅図作り
9 月	絵図のコンセプトづくり 構図づくり 絵師も踏まえて
10 月～12 月	字毎に(詳しい聞き書き) 山内名人さんたちを活用
平成 28 年 4 月～	絵図づくり
	定期的なやまうち故郷絵図作成委員会 会合
	完成披露 滋賀県立大学上田洋平さん講演

【評価】

一連のプロセスは、記録、画像、動画としてまとめ、地域活性化の研究として考察、発信していきます。